

大谷大学研究年報

バックナンバー目次(三)

第二十一集(昭和四四年三月)

末法史観と三願転入——元仁元年に因みて

松原 祐善

足利時代の唯識宗

富貴原章信

潜在機能概念よりみたマックス・ウェーバーの「プロテスタンチズムの倫理と資本主義の精神」論

高橋 憲昭

明初の法会と仏教政策

滋賀 高義

第二十二集(昭和四五年三月)

清沢満之の「精神」について 寺川 俊昭

無の問題——現実性と身体的なもの——

暁鳥 哲夫

梵網經研究序説

白土 わか

「沙石集」の構成と説話

片岡 了

第二十三集(昭和四六年三月)

治病方としての天台止観——智頭の医学思想序説——

安藤 俊雄

顕真實信の論理

白井 元成

サッルースティウス『カティリナ陰謀記』——古典ラテン語散文による歴史文学の起源——

水野 有庸

日本仏教における社会的実践の系譜——菩薩戒の受容とその展開過程——

名畑 崇

第二十四集(昭和四七年二月)

源空の浄土開宗と門下の分流 栗原 行信

『イエスの御名を称えることについて』——キリスト教と仏教の称名——

坂東 性純

時間についての存在論的考察——フッサール及びハイデッガーを経たサルトルの時間論——

西井 元昭

円測・解深密經疏の散逸部分の漢文譯

稲葉 正就

第二十五集(昭和四八年二月)

『有明集』以後——その思念についての序章——

仲野 良一

華嚴經性起品の研究

鍵主 良敬

樂邦文類と親鸞教學

大門 照忍

中国の教育改革——その背景と展望——

大竹 鑑

中世における地方社寺の勸進——近江江北の社寺資料による—— 佐々木孝正

第二十六集(昭和四九年二月)

エックハルトの神秘主義における中心問題

坂本 弘

信における未来の問題

本多 弘之

『漱上人文集序』管見

河内 昭圓

本邦五河川およびわ湖における附着藻類の生態学的研究 日下部有信

ジャイナ論理学における kevala

長崎 法潤

第二十七集(昭和五〇年二月)

親鸞における曇鸞教學の受容と展開——親鸞教學の形成過程を中心とする一考察

幡谷 明

法華統略の研究

三桐 慈海

想像力と空想力の区別についての研究

——S. T. Coleridgeを中心として——

山下 登

元朝における政治と仏教

藤島 建樹